

福岡大学筑紫病院の基本理念

あたたかい医療

(私たちは、心の通う医療を実践しています)

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。その基本は「人間性に立脚した医療」、その繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

目次	病院長就任のご挨拶	1
	外科紹介(新任のご挨拶)	2~3
	救急外来を受診される皆さまへ	4
	がんセミナーのお知らせ	4

ちくし



救急外来を受診される皆さまへ

診療時間外診察に係る
特別料金について(お願い)

当院の救急外来では、本来入院を必要とするような緊急性の高い患者さんの受け入れを目的としています。しかしながら、救急外来での診療を希望される患者さんの中には緊急性を認めない軽症の患者さんも少なく受診されており、本来の目的である緊急性の高い患者さんへの迅速な対応に支障をきたしております。この状況を改善するために、平成31年3月1日より、下記の「対象外となる症状等」に該当しない場合には、診察費とは別に診療時間外診察に係る特別料金(時間外選定療養費)をお支払いいただくこととなります。地域の皆様に安全で質の高い医療を提供するための止むを得ない措置ですので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

- 金額……5,000円(税別)
- 対象外となる症状等
 - 救急外来受診後、引き続き入院する患者
 - 他医療機関から救急外来受診のための紹介状を持参する患者
 - 救急車により搬送された患者(緊急性がない場合を除く)
 - 筑紫地区の夜間及び休日当番日の時間(下記)に受診する患者
- 【小児当番】 月・水・金曜日の17時~23時
●第4日曜日の9時~23時
- 【内科・外科当番】 月・水曜日の17時~翌9時
●第4日曜日の9時~翌9時

2019年度福岡大学筑紫病院
第17回がんセミナー
もっと知ろう 肺がんのこと **入場無料**
事前申込不要

日時 2019年5月28日(火)
14:00~15:00(受付13:30~)

場所 福岡大学筑紫病院3階ガーデンホール
※駐車場は外来駐車場をご利用下さい(有料)

講師 福岡大学筑紫病院 呼吸器外科 講師
吉田 康浩 先生

問い合わせ先 福岡大学筑紫病院 地域医療支援センター
(担当:川浪 田代)
〒818-8502 筑紫野市俗明院一丁目1番1号
TEL 092(921)1011(内)1150
http://www.chikushi.fukuoka-u.ac.jp/

病院長就任のご挨拶

福岡大学筑紫病院 病院長 柴田 陽三



2019年4月1日付けで病院長に就任した柴田です。専門分野は肩関節疾患です。なかでも肩腱板断裂、変形性肩関節症、五十肩、肩のスポーツ障害に関して積極的に治療を行っています。私は、1981年に福岡大学を卒業し、主に福岡大学病院で診療に従事してきました。2009年10月から教授職を拝命すると同時に当院整形外科に勤務しております。

当院は2013年5月に新病院を開院し、6年が経ちました。向野前病院長のもと、地域の方々が必要としている医療提供体制の整備に努めてきました。また、経営改善など病院運営についても副病院長として注力してきました。前病院長のもとで学んだ経験を活かし、今後もその取り組みを継続してまいります。

地域包括ケアシステム構築が推進され、在宅医療の関心が高くなっている中で、地域の医療機関や介護施設等から在宅への移行支援がますます重要視されてきています。在宅支援室を中心として、地域の医療機関や介護施設等と連携した一体的な在宅医療の提供を推進します。

当院は地域医療支援病院および地域がん診療病院の指定を受けています。地域における脳卒中に関する診療体制の整備を進め、地域医療支援病院の役割の一つである救急医療の充実を図ります。また、地域がん診療病院としての機能を充実させるため、5大がんのうち当院で最も症例数が少ない乳がんを専門とする乳腺外科医、形成外科医を4月に配置します。さらに、教授が不在となっている一部の診療科について、教授職を配置し、診療体制の強化を図ろうと考えております。

昨今の病院勤務医の過剰労働問題、働き方改革等により、当院においても医師等の労働環境整備を行うこととなりました。昨年7月以降、土曜日は緊急、その他やむを得ない場合を除き、初診、再診ともに予約のみとさせていただいており、地域の皆さまには大変ご迷惑をおかけしております。

当院の基本理念である「あたたかい医療」を忘れることなく、地域医療を支援する大学病院としての役割を認識しつつ、より高い専門性と高機能で充実した医療を提供できるように努力して参ります。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

診療日のご案内

	循環器内科	内臓糖病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	整形外科	脳神経外科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

△(予約のみ)

【受付時間】
〈平日〉8:40~11:00 〈土曜〉8:40~10:30
※皮膚科〈月曜〉14:00~診察(4月より診療日変更)

【休診日】
日曜日・祝祭日 年末・年始(12月29日~1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】
〈平日・土曜日〉13:00~20:00 〈日曜日・祝祭日〉11:00~20:00

交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合
西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分
JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合
九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分
県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。
※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。



外科紹介

新任のご挨拶

平成31年4月1日付で診療部長に就任いたしました渡部雅人(わたなべまさひと)と申します。初代有馬純孝教授、2代目前川隆文教授に続いて、私が3代目となります。筑紫医療圏の基幹病院である福岡大学筑紫病院で働くことになり身に余る光栄に存じます。筑紫病院外科は消化器外科および呼吸器・乳腺内分泌外科を担っており、それぞれ福岡大学病院と連携して診療にあたっております。

私は平成3年に九州大学医学部を卒業し第1外科(現臨床・腫瘍外科)に入局しました。一次派遣を終え外科専門医を取得後、平成8年大学院に入学し肝胆道外科の基礎研究を行い、平成12年修了して学位を取得しました。その後二次派遣を終え消化器外科専門医を取得後、平成17年から九州大学の助教を務め、臨床・腫瘍外科で肝胆膵グループと上部消化管グループで修練しました。そして平成19年から北九州市立医療センターに外科部長として勤務し、上部消化管外科を専門としました。今日までに日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、がん治療認定医、および専門領域では食道科認定医、食道外科専門医、さらには日本内視鏡外科学会技術認定を胸腔鏡下食道切除術で取得しています。

北九州市立医療センターでは、年間25例(県内第3位)程度の食道癌手術をすべて胸腔鏡下に行いました。私が行っている腹臥位胸腔鏡下食道切除術(図1)は全国的にも評価され、岩崎昭憲福岡大学教授が会長を務められました第31回日本内視鏡外科学会総会ではパネルディスカッションで発表させて頂く機会を与えられました。私が提唱しているシンメトリカルディセクションという手術法では、胸部の手術時間は平均198分

で最近3時間を越えないようになりました。出血量は平均31gで、この10年間食道癌手術で輸血は要していません。リンパ節の郭清個数も十分で、合併症も軽微です。術後在院日数も中央値15日間で胃腸手術と大差ない経過となっており、低侵襲を達成していると思います。長期予後は全国平均の全生存率44.1%に比べ、62.4%と大きく上まわることができました。

胃癌手術には胃全摘術・幽門側胃切除術・幽門保存胃切除術・噴門側胃切除術と4種類(図2)ありますが、私はすべての術式を早期癌に対して腹腔鏡下に行ってきました。切除も再建も体腔内で行う完全腹腔鏡下手術(図3)を平成20年より開始して平成30年まで1001例行っています。特に腹腔鏡下幽門保存胃切除術は胃の出口である幽門が保存されるため、胃切除後後遺症のダンピング症候群が起こらず、体重減少も軽微なため対象症例(胃中部cT1N0腫瘍)には有意義な手術です。しかし、



福岡大学筑紫病院 外科 教授 渡部 雅人

腹臥位胸腔鏡下食道切除術 図1

Mckeown/胸部・腹部・頸部
・食道全摘術

Ivor Lewis/胸部・腹部
・食道(中)下部切除術

右上肢を高く拳上した完全腹臥位
後腋窩線を中心に第3,5,7,9肋間に12mmポートを留置
8mmHg気胸併用両肺換気完全胸腔鏡下手術

胃がん術式 図2

TG 胃全摘術の郭清
DG 幽門側胃切除術の郭清
PPG 幽門保存胃切除術の郭清
PG 噴門側胃切除術の郭清

胃癌治療ガイドライン第5版(2018)

幽門下動静脈温存、右胃動静脈温存、迷走神経肝枝および腹腔枝温存といった高度の技術を要し、約1割の施設しか行っていない術式です。平成25年より開始して良好な成績をあげています。昨年公開され波紋を上げた国立がん研究センターのデータでは、胃癌術後5年生存率は全国13位、九州1位で、手術手技だけでなく長期予後も優れていました。

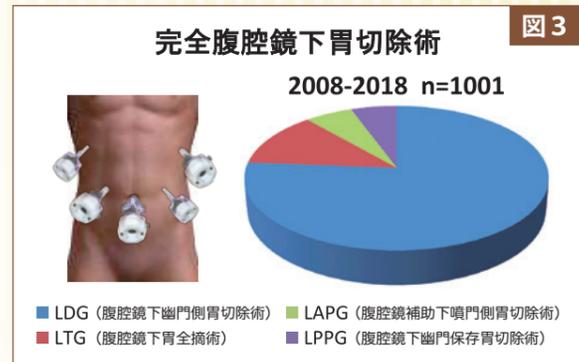
ベストドクターは、医師に「あなた自身またはあなたの大切な人が特定の専門分野の医師を必要とした場合、誰を選びますか?」という相互評価調査結果から決定され、1年おきに認定されます。私はこれまでの業績から2016年に初めてベストドクターに選出され、2018年にも選出していただきました。今後は筑紫病院での業績を評価されるように全力で取り組みます。

福岡大学筑紫病院外科は先代の前川隆文教授が下部消化管外科を専門になさっていたこともあり日本大腸肛門病学会の認定施設で専門医も複数名在籍しています。引き続き高度な大腸癌治療を提供できるように努め、長谷川傑福岡大学教授と連携して腹腔鏡下手術の普及を喫緊の課題としています。炎症性腸疾患に関しては今後も二見喜太郎准教授に診療して頂きます。

肝胆膵外科はこれまで専門医が不在でしたので肝胆膵高度技能専門医を1名招聘しました。肝胆膵外科手術は、消化器外科手術の中で、特に難易度が高いといわれています。高度技能専門医の資格を得るには、まず、消化器外科専門医の資格を持っていること、日本肝胆膵外科学会が認定した修練施設で3年以上の修練期間を有すること、そこで高度技能指導医に直接指導を受け、高難度肝胆膵外科手術の経験を積み、認定基準に定められた手術実績数を持つこと、また自らが行った高難度肝胆膵手術の無編集ビデオを提出し、安全かつ適切に主体性をもって手術を遂行しているかをビデオで審査を受け、通過した医師だけが高度技能専門医になれます。筑紫病院外科も修練施設の要件を満たし認定申請する予定です。

呼吸器・乳腺内分泌外科は、これまでも肺および縦隔疾患の手術の約9割を胸腔鏡下で行い、術後合併症は少なく経過順調な症例がほとんどでした。山下真一准教授が福岡大学病院より赴任され、さらに高度な診療が可能になります。

筑紫医療圏におきましても、今後ますます高齢化が進み、悪性新生物の入院患者推計は増加傾向にあります。筑紫医師会の先生方との連携を密にして地域医療支援病院としての役割を果たし、5市42万人の市民を地域がん診療病院としてがんの恐怖から救い、基本理念である「あたたかい医療」を行ってまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



スタッフ一同
後列(左から) 棟近太郎、柴田亮輔、平野由紀子、竹下一生、甲斐田大貴、宮坂義浩、吉田康浩、永田旭、小島大望、上床崇吾、江口夏果(秘書)
前列(左から) 平野公一、二見喜太郎、渡部雅人、山下真一、東大二郎

